

認知症になっても安心して暮らせる社会を

2022 JANUARY

No. 498

1

月刊 POLE-POLE (スワヒリ語)

ぼ～れぼ～れ

ゆっくり やさしく おだやかに



群馬県支部版

わたぼうし No.461

認知症の人と家族の会 理念

認知症になったとしても、介護する側になったとしても、人としての尊厳が守られ日々の暮らしが安穩に続けられなければならない。認知症の人と家族の会は、ともに励ましあい助け合って、人として実りある人生を送るとともに、認知症になっても安心して暮らせる社会の実現を希求する。

巻頭言

年頭の「挨拶

旧年中の皆さまのご厚意に心から感謝します。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年末、電話相談員研修で「群馬いのちの電話」の岡田一恵さんのお話を伺いました。

くしくも神田沙也加さんが亡くなって間もない時に重なりました。「いのちの電話」が紹介されることも増え、岡田さんのお話も伺い、

命、生きること、「いのちの電話」の意義について改めて考えさせられています。

また、暮れには、新薬アデュカヌマブの承認が先送りとなる残念なニュースもありました。

そして、年明けから新型コロナウイルスが、これまで以上に猛威を振るいつつあります。

命への影響はこれまでよりも低いとも言われますが、不安な思いを拭い去ることはできません。

今年一年を見通すのは難しいことですが、それでも、これまでに培った経験と知恵を十二分に活かして、感染予防に努めつつ、予定している活動は粛々と進めていきたいと考えています。

皆様のご参加、ご支援をお願いいたします。



目次

・ 巻頭言 年頭の「挨拶	1 頁
・ おたよりから	2 頁
・ 報告 電話相談員研修会	2 頁
・ 長谷川和夫先生 追悼特集 (2)	3 頁
・ へわが家の認知症ケア手帳 ②③	4 頁
・ 渡辺医院院長 (当会顧問) 渡辺俊之	4 頁
・ トピックス コロナで免許返納減速	4 頁
・ 編集後記	4 頁

これからの予定

- 2月19日 (土) 太田つどい 10時～12時 アスкул(東毛敬愛病院敷地内)
- 2月27日 (日) 県央つどい 10時～12時 県社会福祉総合センター 2階 203A 会議室
- 前橋市・介護家族支援講座 2月12日 (土) 10時～16時 県社会福祉総合センター 202 会議室
- 高崎市・介護家族支援講座 3月12日 (土) 10時～16時 高崎市南公民館

電話相談

群馬県支部 (群馬県からの委託事業) 認知症の人と家族のための電話相談

本部フリーダイヤル 027 (289) 2740 0120 (294) 456

おたよりから



家にこもらず外に出るように

認知症の夫と二人、週3回朝のラジオ体操に通っています。近所の人々と朝のいつとき顔を合わせ、言葉を交わしています。なるべく家にこもらず、外に出る機会を作るようにしています。

今年こそ出席したい

今年こそコロナが落ち着いて、つどいに出席させて頂けたらと思います。よろしくお願い致します。

私が入院！不安だらけです

夫と二人所帯で、介護者の私の方が3月末に三週間の入院・手術の予定です。認知症の夫は2か月のロングステイを予定しています。認知症の進行が少し速まっている時期なので心配はあります。

ステイ中の体調変化に訪問医を利用できるのか？介護できる人に受診に付き添ってもらえるのか？コロナが陽性になったらどんなところ入院となるのか？自分のことより不安だらけです。

妻が永眠いたしました

このたび、妻が78歳で永眠いたしました。「家族の会」には都合であり出席できませんでしたが、皆様からのアドバイス等ありがとうございました。

妻は60歳を過ぎた頃より認知症の表情が出るようになり、69歳から施設のお世話になりました。デイサービス1年、グループホーム1年、ショートステイ7か月、特養約7年、最後病院が1か月でした。施設に入る前の2年間ぐらいは二人であちらこちらにドライブに行き、楽しい思い出もいっぱい作ってくれました。

コロナで会えない時もありましたが、最後の1か月は週に1回面会できた事、そして最後の看取りも出来た事は何よりの幸せでした。施設の皆さん、本当によく介護に当たってくれました。感謝しかないです。又、本人なりに頑張ってくれたと思います。

寂しくなりましたが、妻の分まで元気を出して頑張ってください。「家族の会」の皆様本当にありがとうございました。

2021年度 電話相談員研修会を開催

「群馬いのちの電話」―基本精神とその具体的な活動

講師 群馬いのちの電話 常任理事 岡田一恵さん



2021年度1回目の研修会を昨年12月25日に開催しました。命にかかわる相談に、電話一つ、言葉という手だけで一つで向き合う相談のあり方には、私たちが学ぶべきことがあるはず。そこで、以前から知己を得ていた岡田さんに講師をお願いしました。

群馬いのちの電話は、一年365日一日も休まず、一日平均50〜60件の相談を受けても、電話は鳴りっぱなしだと言います。鳴りっぱなしでつながらない電話もあり、相談員がもつとほしい、と話されました。相談件数の多さに、改めて尊敬の念を強くするとともに、相談を望む人が多い現実に驚愕させられました。

いのちの電話とは

いのちの電話は「悲しみや苦悩に向き合う、対話による援助活動」です。悲しむためには聴いてくれる人が必要であり、悲しむためには話すことができる場が必要です。悲しみを確かに伝え、その人と共有するこ

とで、初めて気持ちは落ち着き、癒されます。悲しみを悲しむためには、温かいかわりと時間が必要となります。それは、対話によって生きる力を支えるのです。ただこのひと時、対話を通して自分を取り戻し、明日を迎えることを求めます。

この、冒頭に話していただいた基本的な考え方は、「私たちが目指す処とも共通するところが多いと感じました。また、「自分の経験はほとんど役に立たないと知る」など、どきっ！と襟を正させられるような具体的なあり方についての言葉もたくさん伺うことができました。静かな語り口の中に、一本芯の通った岡田さんその人にも感銘を受け、これからの相談の中に活かしていきたいと思うことの多い研修会でした。

〈群馬いのちの電話〉

027・221・0783
(毎日 9:00〜24:00)

長谷川和夫先生 追悼特集 (2)

お手紙と著書から、先生のお人柄を偲びます

〈先生からの、岸さんとの交流の経緯を綴ったお手紙〉

拝後

お手紙 拝受いたしありがとうございます

昨夕 岸久美子様と連絡がとれまして
去る五月二三日 前橋市で 講演会がある
時に お目にかつたのら 貴方は 最初で 中玉
とつたに、おぼえていないのに、どなたか、おつたか
まの 当惑しつのは 無理もなりことであつた
納得しました。二〇〇一年十一月発行 25
の 岸さんの記事が、きつみけだつたと
ました。誠に 不思議な 絆が生まれる
思つたり、 貴殿も 貴殿が 仲介されて
と 貴殿の 会が 貴殿に あつたこと 思つたり

子玉の 現在 執筆中の 本 (中央活版社) に
編集者と 相談して の 巻末 にも 思つて
つたり、 岸さん も 世の人 として 活躍されて
おられる 由り、 貴殿も 貴殿も 貴殿も 貴殿も
貴殿も、 貴殿の 貴殿の 貴殿の 貴殿の 貴殿の
読んで 読んで 読んで 読んで 読んで

石 御礼を

部長

二〇二二年六月二六日

長谷川和夫

田部井 康夫 様

著書「認知症ケアの心」より
「ほんの一言でも家族の支えになる」

2010 年 5 月 23 日のことでした。前橋
市での研修講習会に講師として参加
した時、岸久美子さんとおつしやる
一人の女性が、10 歳くらいの可愛い
女の子を伴って世話人が集まってい
た会議室に來られました。そして、
ごあいさつの後「あの時生まれた咲
良がこんなに大きくなりました」と
言つて涙ぐまれたのです。私も部屋
にいた人も驚きました。

岸さんと知り合ったのは、今から
約 10 年前になります。岸さんは結婚
された半年後に舅さんが認知症の
診断を受けられて、以来介護を続け
ておられました。さまざまな介護の
苦難が続きましたが、結婚 8 年目に
お子さんを妊娠されたそうです。そ
のエピソードを家族の会群馬県支部
報『わたぼうし』第 218 号に「産休！
コウノトリが舞い降りて」と題して

寄せていました。たまたまそれを読
ませていただいた私がよく短い文章
で「安産祈ります」と書いて支部に
送ったところ、それを読んだ岸さん
が感謝の手紙を私に送ってください
ました。私の家内は岸さんからの手
紙を読んで、桜の模様のハンカチを
送ったのです。そのハンカチを持ち、
10 歳になった咲良さんと一緒に來
ていただいたということでした。

あれから介護と育児の「両面作戦」
で苦労されましたが、舅さんは 17 年
の闘病の末に 79 歳で他界されたそ
うです。私は 10 年を経て岸さんにお
会いして、短い言葉でも、いかに介
護する家族の支えになるのかを知る
ことができました。

(長谷川和夫先生著「認知症ケアの
心」ぬくもりの絆を創る) 33、34 頁
2010 年 11 月 10 日中央法規出版刊)

(なお、本部会報 12 月号の編集後
記で先生が名付け親になって下さ
ったとしたのは田部井の記憶違い
でした。お詫びして訂正します)



渡辺俊之の「わが家の認知症ケア手帳」②
似た症状出る疾患たくさん

渡辺医院院長（精神科医、当会顧問） 渡辺俊之



「夫が入院後に突然、ぼけてしまっ
たんです。これから生活していけませ
ん」。息子と一緒に相談にやってきた
Aさん（78）は話します。話を聞く
と、Aさんの夫は骨折で手術を受けた
後、病室で暴れたり、幻覚が出たりす
るようになり、妻や息子の名前も忘れ
てしまっているといっています。

Aさんのように、年離れた配偶者や
親が入院や手術を受けた後、いきなり
認知症になったと訴える家族に時々
出会います。ですが、認知症のような
症状が前触れもなく突然始まったと
いう場合は、認知症でなく「せん妄」
という状態であることがほとんどで
す。

身体的にも精神的にも弱くなった
高齢者が、骨折や心臓病、肺炎、手術
などの身体的な負担を体験すると、意
識が混濁し、攻撃的になったり幻覚が
出たりといった症状が出るることがあ
ります。身体の状態が安定して意識が
はっきりしてくると、元の状態に戻り
ます。

高齢者は手術などの時に「せん妄」
が起こる可能性があること、多くは一
過性ですぐに改善することについて、
本来なら主治医が患者と家族に情報
を伝え、安心感を与えるべきです。で
すが、多忙な医療現場では、説明が行
き届かないことも少なくありません。

認知症の症状に関する情報は世間
に広く知られていますが、認知症に似
た症状が出るほかの疾患もたくさん
あります。医療者にとっては常識的な
ことでも、患者や家族が知らないこと
は多く、そうした情報格差によって不
安や混乱が生じます。

認知症と似た症状が出る病気は、例
えば、うつ病による仮性認知症、甲状
腺機能低下症、慢性硬膜下血腫、ビタ
ミンの欠乏など。現代はインターネット
トを使い、情報を探することもできま
す。気になることがあったら「認知症に似
た病気」と検索してみてください。



トピックス

コロナ禍 車欠かせず？
免許返納 急減速 県警まとめ

2021 年 13% 減

2021 年に県内で運転免許を自主返納

した人は前年比 1128 人（13.7%）減の 7122

人（確定値）だったことが 17 日、県

警のまとめで分かった。近年は返納者

数が右肩上がりに増加していたが、8

年ぶりに減少に転じた前年をさらに

下回った。急減速の背景にはコロナ禍

の長期化で、返納後の公共交通機関利

用をためらったり、返納手続きに向

きにくかったりする事情があるとみ

られる。県警は、「重大な事故を起

す前に返納を検討してほしい」と呼び

群馬県警・安全運転相談ダイヤル

#8080



掛けている。

県警によると、21 年の月別返納者

数は 4、5 月を除いて前年を下回っ

た。緊急事態宣言が発令された 8 月

は 502 人（11.5% 減）、宣言解除後の 10

月 12 月も 8.5% 減と低水準だっ

た。

返納者のうち、65 歳以上の高齢者

が占める割合は 98.0%（6976 人）で、75

歳以上に限ると 73.8% だった。

（以下、省略）

（2022 年 1 月 18 日付上毛新聞）

編集後記

新しい年が明けました。私の年明
け第一の朗報は、昨年後半悩まされ
続けた腰痛が急激に改善したこと
です。整形外科でもあまり真剣には取
り合ってもらえず、ひたすら、ある
知人が教えてくれた運動を続けてき
ました。その成果だと信じてこれか
らも続けます。よかった！（田部井）

